

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300861		
法人名	(有)みなみ風		
事業所名	グループホームみなみ風		
所在地	静岡県富士市伝法1773-1		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2272300861-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2272300861-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最期までその人らしく、人として当たり前の生活を過ごす支援をしている。その人の存在を認め、一緒に生活する。そしてその人の生きてきた人生を肯定し出会えた喜びを共感しながら人生の幕引き家族としてお手伝いする。(有)みなみ風職員で月目標に向かって質の向上に努めている。週に2回新鮮な野菜を届けていただき、週1回肉や魚が届き季節感ある食事をと努力している。散歩は富士山を眺めながらゆっくりと歩き気分転換をする。季節ごとに併設の施設との行事があり沢山の方と交流の機会になかで、楽しめるように担当者が自分の持ち味を最大限に生かし新たな取り組みを取り入れたりと飽きない工夫を凝らしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広いデッキにはソファが2つ、藤椅子も数点並び、温かな日差しに誘われた利用者の憩スペースとして開設以来親しまれていましたが、本年度はさらにアクティブに活用しようと、屋台のラーメン屋さんに入ってもらい、野外ラーメンを堪能しています。地域も巻き込んだ味噌づくり、バスをチャーターしての苺狩り、グループホーム連絡会の事業所間交流会は恒例行事としてつがなく続く中、来期4月からは新チャレンジが2つ始まります。1つは介護記録が電子化によりペーパーレスとなることで、今から研修も始まっています。2つ目は他事業所との人事交流で、これは職員からの要望もあったことが実現していて、春に向かい弾みとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有できるように掲示しており、ミーティング等で実践につながるよう話し合いをしている。	理念は発言の軸になっていて、立ち返るものとして職員の中にあることから、管理者は浸透を確信しています。また毎月目標をもった活動をおこない、5Sは2ヶ月続けたこともあって、見た目に向上が判る成果に結ばれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入っており、町内の祭りに参加し、清掃等の行事に参加している。	お祭りではブースを出させたり、公園の掃除、味噌づくりや餅つき等、地域と共に過ごすことが叶っています。中学は3校が入れ替わり立ち代わり訪れていて、「部活の前に寄ってもいい？」との嬉しい言葉を残していく生徒もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトを利用し地域の活動をしたが、地域からの出席なし。次回11月に、前回の反省を踏まえて企画を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の祭り参加の継続。意見を頂いた出店時の旗を作った。	運営推進会議は併設事業所と合同でおこなうことで、相互に情報の確認もでき、また役割も分担でき、円滑な隔月開催につながっています。また民生委員は「今、蓮の花がきれいだよ」と地域資源情報を随時入れてくださいます。	事故はありませんが、あれば報告するとともに現状もヒヤリハットについて報告があれば、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新時や情報開示の時等直接かかわり、市から研修に参加している。	運営推進会議は行政の出席が得られ、介護相談員は会話が成り立たなくても利用者の隣にいてくださる親身な対応で、「車いすに安易に頼らず…」「お風呂への誘い方が上手」と、職員がやる気になる言葉をくださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開放しており、身体拘束委員会を発足させて、身体拘束に対する正しい理解ができるように会議で検討し、各職員の月目標を行っている。	本年度法改正にあたっては指針を策定のうえ身体的拘束廃止権利擁護委員会を設置し、すでに4回の委員会運営と研修(勉強会)2回も終わっています。本年度新採者はなかったため、次年度に向け新人研修として本件を組込む準備を始められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や入居者の状態や、職員のかかわり等にお互いに注意しあっている防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で講師を招き学び合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し、理解していただいている。また、不安や疑問等があった時にはその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常を過ごしている中で、利用者から意見や要望を聞き、家族への連絡時や面会時に聞き運営に反映させている。	家族は事業所の行事に合わせてくれることはほとんどないものの、利用者本人のことは深く想ってくださいあって、月に1度外食に誘いだしてくれたり、「外食はもう無理」として応接室でお弁当の会食を楽しんで帰られる家族もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見や提案を聞き、面接の中で聞いている。	月に1回のミーティングが定例であるのみで、申し送りも朝礼もありませんが、長く働く職員ばかりのため隙間の時間を利用してのスタンドミーティングが自然におこなわれ、シフトや資格取得等の相談も挙がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表やタイムカードで状況を把握し、評価シートや面接の中で環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を充実させるとともに、外部研修に参加している。参加した者は、伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のGH交流会を年に1度行い、他施設の職員と企画を共に立てながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を収集し、職員間で情報の共有を行いながら、本人の困っていることや不安になっていることへの対応ができるよう関係づくりに努めている。さらに本人が喜んでことを共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を伺いながら、安心して家族自身が日常の生活が送れるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向や本人の状況を踏まえた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護しているという立場ではなく、共に過ごすよう心掛けている。利用者一人一人の特性を生かしながら日々過ごしている。職員も利用者から学ぶことがあり、損ね位の姿勢を大切に一緒に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって家族はとても大切なことであることを常に考え、家族や利用者の関係性が保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との連絡を密にししながら、なじみの方への近況の報告等をしている。面会時等に、落ち着いた入居でひと時を過ごせるよう環境を整えている。	在宅の頃からのつきあいの継続はありませんが、その人の習慣を大切にしています。例えば夜の就寝が難しい人には生活のリズムを無理に替えることはせず、小さな試行錯誤を繰り返して健康に暮らせるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔なじみになり、安心して共に過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになっても時間が経過し、家族の落ち着きがでたころに来訪などがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人ができることやできないことを共有しながら、今本人が心地よくできることに目を向けてケアしている。	入居にあたっては家族に生活の記録としてA4版5枚もの量を書き入れてもらい、そこからその人の生活の様子を把握しています。まずは「してはいけないこと」を頭にいれ、「できること、できないこと」を意識した関わりにつなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、以前利用していた施設での情報を得て、職員間で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りの中で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや申し送りの時間で話し合っている。家族には連絡や面会時に意見を頂いている。	通常の実践は過不足なく実施しており、検討内容と結論に対して職員意見を挙げていることは、サービス担当者会議から確認できますが、本件に係る知識には格差があり「チームで～」という点においてはやや課題としています。	「センター方式を電子化の予定」とのことですので、職員にも一筆参加を促して、知識の標準化を進めることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やミーティング、申し送り時に情報の共有をしながら計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「ねばならない」という考えをなくし、その時々に必要なケアができるよう努力している。家族により必要な物品が用意できないときは代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の花が咲いているや公園や寺等に行くことにより、暮らしの中で楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療があり、異常時には往診で対応をしてくれている。	8名が月2回訪問診療をおこなう協力医に変更し、従来のかかりつけ医を継続する1名も医師が往診くださるので、全員が所内で診療を受けています。週4日勤務の看護師が立ち合い、結果は申し送りノートに記録しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談しながら日々の細かな気づきの情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先にサマリー等持参し、早期退院に向けて情報交換をする。退院時には注意事項などをしっかり主治医に報告する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時や、その都度状態の変化に応じて本人や家族の意向を重視しながら、ホームでの指針や終末期の方針を共有できるよう説明する。	法人の代表者が看護師ということで職員は看取りへの不安がほとんどなく、本年も3名の実績があります。長く此処で暮らした利用者のお見送りは職員にも感慨深いものの、気持ちとしては受け入れることができている、ある意味達成感のある取り組みとして結実しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各疾病のマニュアルがあり、応急処置や急変時の初期対応の勉強会を行い、ミーティングなどで再確認する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の実施。訓練荷が職員全員参加としている。総合防災設備会社の担当者から指導を受けている。	当日休暇の人も参加して『全員参加』プラス防災設備会社の指導を以て、年2回実施しています。火災・地震想定で取り組み、ドライアイスや煙にみたてての実践的な訓練があるも、備蓄は水とアルファ米の他は未だ整備途中です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分らしく、いつまでも」暮らしていただけるよう、ほこりやプライバシーの保護等に十分気を配っている。	日常には利用者同士のいさかいもあります。双方の言い分を納得がゆくまで傾聴しつつ、言葉にならない人の気持ちは職員が代弁して、また席などスペースも考えて気持ちよく暮らせるように気遣っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	束縛せず、待つ姿勢で返答や動作のゆっくりな方でも落ち着いてせかさな対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくり、のんびり、なじみの仲間と自分らしくいつまでも」を念頭におきできる限り利用者の望む方向で過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月ごとに訪問美容師にカットしている。着替えは本人が選べるよう工夫しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い季節感を味わっていただいている。野菜の皮むき等と一緒にいたり、洗った食器をゆっくり一緒に拭き上げしている。	食材は、野菜・肉・魚それぞれの店舗から新鮮なものが届き、調理担当者がその日の献立を考え、提供しています。訪問時には白菜がデッキに干され瑞々しさをキラキラしていて、美味しい漬物になるのが待たれていました。	職員も全員が同じものを食べていますので、検食簿の導入や、献立(栄養)会議があるとよいと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時には、職員が共に過ごし様子を観察している。きざみ食、ミキサー食、水分のトロミ等その時に応じ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。本人の力に応じて、洗面所へ誘導、見守りやブラッシングの介助を行い清潔を保つよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表にて排泄パターンを観察し情報共有しながら、薬に頼らない工夫をしている。	排泄チェック表はつけてはいても、実際失敗があれば少し早めに声をかけるといった調整は、各職員が個々におこなっています。トイレに設置された前傾支持バーは2人介助となる人も職員1名で自身の脚で支えることができます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩、腹部マッサージを行いながら牛乳を飲んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に考慮して気分よ入浴できる環境を整えている。	一般浴槽にリフト浴を設置し、重度化しても湯船に浸かる歓びを味わえています。気持ち良くなると「出たくない」として長風呂となる人もいます。お風呂のない日には足浴、手浴を茶殻入りでおこない、殺菌効果を高めてもいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足が冷えているときには湯たんぽを使用し、その時の状況でベッドで休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方されている薬は共有して理解している。変更や屯用があるときには、ノートと口頭で伝達して共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しんで過ごせるよう、ドライブや散歩、日光浴等を行っている。利用者の希望でおやつづくりをした。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設の施設へ行くことや、ベランダで過ごしたりしている。年に1回いちご狩りに行く計画がある。	戸外では気分が高まるのか、「スロープがあっても全員が階段を使うことがある」とのエピソードもあるほど、皆外出が大好きです。外周散歩、また「今日はいい天気だから鯉を見に行こう」といったミニドライブ共に思いつきでおこなっていますが、桜や薔薇の花見はほぼ恒例となっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の中に少しのお金を入れて安心している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、対象者がいないので行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの南側に大きな窓があり朝日を浴びている。日差しの強い時にはカーテンを使用している。暖かい日にはテラスで歌を歌ったり、お茶を飲んでいる。企画で出前のラーメン屋が来たときにはテラスで作るのを見ながら全員で食べた。	通常の倍はある広いリビングには大きなソファが置かれ、皆と同じ場所にはいたいけど少し独りがいい、うたた寝したいという人の居場所となっています。また換気は3回、歯磨きのとき石鹸手洗い、次亜塩素水を噴霧して乾燥を防ぎ、感染症知らずでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席での談話や、リビングのソファ。一人でいたいときにはテラスのソファで個々に気に入った場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使用していただくよう家族にお願いしている。	大きなクローゼットには1年分の衣類や布団が収まりますが、家族が季節毎に入れ替えるという人もいます。目立った家具を持ち込む人はなく、利用者もほぼリビングに居て、就寝時に使うのみの部屋となっていることが覗えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に生活できるよう、建物全体がバリアフリーになっている。必要な箇所には手すりがついている。		